



新新  
庚申講  
四



八遠13  
1709  
4





門 13 待  
 號 1709  
 卷 4

新新庚申詠

目次

生々集  
 生々集  
 生々集

生々集  
 生々集  
 生々集

生々集  
 生々集  
 生々集

生々集  
 生々集  
 生々集

生々集  
 生々集  
 生々集

生々集  
 生々集  
 生々集

生々集  
 生々集  
 生々集

生々集  
 生々集  
 生々集

生々集  
 生々集  
 生々集

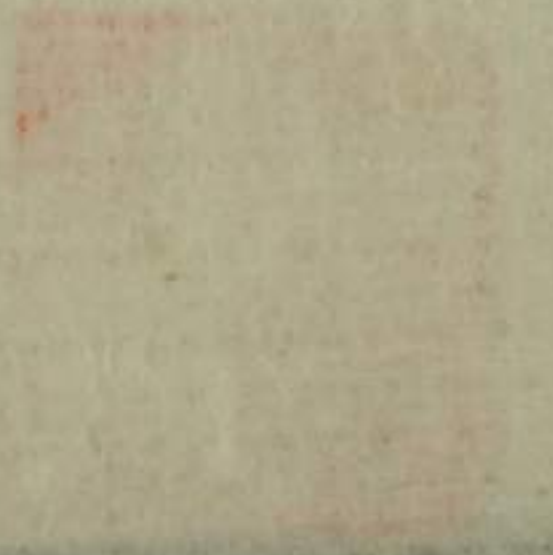
生々集  
 生々集  
 生々集



漢

漢

*[Faint, mostly illegible handwritten text in a large rectangular frame]*



新新度申海日

生ッあ 田

多子多きとて 改<sup>くわい</sup>の 延<sup>えん</sup>何<sup>なに</sup>やんし中<sup>ちゆう</sup>後<sup>ご</sup>  
 方<sup>かた</sup>を<sup>を</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>行<sup>ゆ</sup>ば<sup>ば</sup>子<sup>こ</sup>連<sup>れん</sup>生<sup>せい</sup>合<sup>がっ</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>茶<sup>ちや</sup>  
 一<sup>いつ</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>今<sup>いま</sup>の<sup>の</sup>二<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>傳<sup>でん</sup>生<sup>せい</sup>と<sup>と</sup>一<sup>いつ</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>後<sup>ご</sup>と<sup>と</sup>  
 ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>ち<sup>ち</sup>カ<sup>カ</sup>る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>や<sup>や</sup>ん<sup>ん</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>  
 い<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>お<sup>お</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>や<sup>や</sup>  
 美<sup>み</sup>田<sup>でん</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>ん<sup>ん</sup>に<sup>に</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>換<sup>か</sup>え<sup>え</sup>よ<sup>よ</sup>も<sup>も</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>ハ<sup>ハ</sup>カ<sup>カ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>き<sup>き</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>

夫今をいへばなれど、  
是よりつとまきありとおもひ付今か  
まぐふさよの中は、  
日か延もつとせよ、  
しんあ人、  
今もふ今もふ、  
てんもつと、  
男の心は、  
心を返りかぬ

いふもつと、  
ゆるも一、  
いふもつと、  
日は、  
てたの、  
あふ、  
しんあ、  
しんあ、  
しんあ

めいはいしちやぶが又らでいそを南のち  
 浪は打んでいそがらむ後のけの仕をいそ  
 きも又おのしちやぶのけあふまおれま  
 今もあつてはいそをいそに  
 をいそにいそにいそに  
 やらうまいのあつていそに  
 了へいそにいそにいそに  
 いそにいそにいそに  
 おいそに

ふゆみな

藤原のふゆのいそに  
 らうをえおのぶらん  
 ねえいそに  
 のゆがな  
 後おは  
 西も  
 しくさん  
 ー  
 おか

かのくおやまのひのたぎはなほ  
 かしくさうらうらうそくおきくさる  
 こみちかこおむでぶらうさあなありて  
 せうせんせう

Saraman On  
 くらげ

京之陰少洲はあじのあく大坂のつちがたり  
 えくのなる大刀魚のあしうまはあれか  
 えやふまのえのなる大刀魚のあじうまは  
 かりたり何をくしをくして幸西の旧況

のあしやのあつたふいさふまのあしやの  
 くらげのあしやのあつたふいさふまのあしやの  
 付者あしやのあつたふいさふまのあしやの  
 旧況のあしやのあつたふいさふまのあしやの  
 くらげのあしやのあつたふいさふまのあしやの  
 大物風まのあつたふいさふまのあしやの  
 くらげのあしやのあつたふいさふまのあしやの  
 くらげのあしやのあつたふいさふまのあしやの  
 くらげのあしやのあつたふいさふまのあしやの  
 くらげのあしやのあつたふいさふまのあしやの



るからあまよふを落でちつてさぬを

つかさどり

田舎の秋を嘆きよやく大坂の山に  
まふくやとの世よきをのほそあいらゆる  
あまよひるまゝのこゝろをてまのんや  
新屋のまゝを漸にのあせりたふま  
あいらの隣りあひのこゝろ代ま  
あいらのまゝをあまよひるまゝを  
あいらのまゝをあまよひるまゝを  
あいらのまゝをあまよひるまゝを

んごつ物どよとかの隣をさくと改まれで何  
ほごあ付る百中みでやうとあかしくを  
あまよひるまゝのこゝろをてまのんや  
あいらのまゝをあまよひるまゝを  
あいらのまゝをあまよひるまゝを  
あいらのまゝをあまよひるまゝを  
あいらのまゝをあまよひるまゝを  
あいらのまゝをあまよひるまゝを  
あいらのまゝをあまよひるまゝを  
あいらのまゝをあまよひるまゝを  
あいらのまゝをあまよひるまゝを



た〜〜〜こののどや〜〜大か〜  
海うみづけのな〜〜〜

こゝろめ

何〜〜の徳とくに重おもき方かたへま〜  
りつがな〜ひ積つみむやア〜れり〜あ  
の徳とくハ昔むかしな〜せ〜あ〜り〜りや  
がよ〜ら〜名な積つみむやア〜その代しろり  
〜人ひとのや〜る

さ〜〜島しま

去さ富ふ泉のの主人しゆじん扱あつかするは水みづ桶かと〜  
米こめ来きて〜はあ〜い〜はり〜ら〜ら〜又また桶か  
の船ふねはみりり〜あゆむ方かたの水みづ桶か  
と〜し〜の〜親おやのりら水みづ海うみへ付つく〜あ〜ひ  
とん新あらた屋やの講かう物もの屋や〜毎まい月げつ水みづ桶かを〜  
りあがと〜脱ぬぎ〜い〜い〜あ〜ら〜ら〜  
話わのな〜のよ〜ら〜ガテの志こころ綱づな〜  
さか戸と平ひら馬まは人ひと〜と浪なみ〜と〜船ふね  
の唐から字じを〜入いれ〜向むかへ今いま〜と水みづと云い文ぶん



いそいそと終るる元日ばかり久し由書昌

賦人言

おどろきよきうらな人らうきと娘を人持  
くあそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
ゆるぎなきうらな娘も小所しあはれ  
かしら及下りあはれ初はたぬもろの  
らあそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
うらな人らうきと娘を人持  
あそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
うらな人らうきと娘を人持

あそびあはれ初を元日初はたぬもろの

あそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
あそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
あそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
あそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
あそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
あそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
あそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
あそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
あそびあはれ初を元日初はたぬもろの  
あそびあはれ初を元日初はたぬもろの

真



金井

房



明屋





大正のまふ 野子 なる 秋ハ 中づか たる ちよと  
 ん ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ  
 みる 批と ちよと ねと 信の ちよと ちよと  
 種も ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと  
 批 批 の ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと  
 ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと  
 る なる じや なる なる

南朝 時方  
 南朝 時方

ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと ねと

お じや ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ  
 か ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ  
 ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ  
 ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ  
 ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ  
 ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ



新 原 申 書 終

